

## 第4学年国語科学習指導案

日時 平成23年11月22日(火)4校時  
児童 4年4組 男16名 女13名 計29名  
指導者 堤 栄美子

### 研究課題

豊かな表現を用い、適切に思いや考えを伝えることのできる児童の育成～書く活動を通して～

### 研究課題について（設定理由）

本学級は、様々な発達課題を抱える児童が多く、学習面での差が非常に大きい。そのため、語彙も少なく、なかなか自分の思いを相手に伝えることができない場面もよく見られる。また、日常の作文でも、何を書けばよいのか分からなかったり、言葉が思うように出てこなかったりするため、“書くことは苦手”と感じている児童も多い。しかし、話すことは苦手でも、学習感想など一度「書く活動」を通すと、話しやすくなったり、思いを伝えやすくなったりする。また、書くことが苦手な児童でも、短い文でも書こうと努力する姿も見られる。

そこで、国語の学習において、表現で使う語彙を増やすために、その言葉をどの場面で活用するかを考えさせ、例を多様に用いながら定着させていきたいと考えた。さらに、思いや考えを適切に伝えるためには、正しい表記やよりよい表現にも着目させ、「正しく書こう。」「思いを伝えよう。」という意識を高めるように、学習を進めていきたいと考えた。

### 1 単元名 物語を読んで、感想文を書こう

教材名 「三つのお願い」（ルシール＝クリフトン）（光村図書 4年下）

### 2 単元について

#### (1) 児童観

本学級の児童の多くは、学習に前向きに取り組み、様々な学習に意欲を持って取り組むことができる。また、新しい内容を学習する時にも楽しみながら課題に向かうことができる。

国語の学習では、4月から、日記や行事作文、学習感想など、テーマを決めて、書く活動に触れる機会を増やしてきた。当初、書くことに抵抗を感じ、鉛筆が止まってしまう児童が多かったが、次第に書くことを楽しめるようになってきた。しかし、テーマを指定されたり、内容を絞ったりすると書き表すことができるが、自分から内容を選び“進んで”書くことは、まだまだ定着していない。また、“自分の気持ち”を表すことにつまずきを感じ、出来事の羅列だけになってしまったり、楽しいや悲しいなど決まった表現でしか気持ちを表すことができなったりする児童も少なくない。

そこで、前単元の「ごんぎつね」の学習では、ごんの気持ちを中心に物語を読み進め、場面ごとに学習したことを振り返りながら、ごんになりきって日記風に文章を書く活動を取り入れた。“ごんの気持ち”を必ず入れることを目標にし、自分に置き換えながら想像することで、多様な表現も生まれるようになってきた。

本単元では、「ごんぎつね」同様、物語の登場人物の気持ちに寄り添って読み、自分の体験とも合わせて感想文を書く活動を取り入れ、気持ちを書き表すことのよさに気付き、互いの表現に触れながら、自分の思いや考えを豊かに表現することを目指したい。

#### (2) 教材観

本単元で育てたい主となる能力は、学習指導要領第3学年及び4学年の「B 書くこと」の内容にある「ウ 書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと」、「C 読むこと」の内容にある「ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと」である。また、単元の中核となる言語活動として「物語を読んで、感想を書く」を位置づける。

本教材「三つのお願い」は、主人公とその親友のやり取りや二人の関係を変化させる出来事が4年生の児童の日常に近い形で描かれており、児童にとっては、非常に共感しやすい作品である。そこで、登場人物の性格や行動、人物同士の関係の変化を場面ごとに読み取り、それをどう感じたのか、自分ならどうするかなど、自分と照らし合わせて感想を持たせていきたい。そして、実体験と合わせて深めた読みを基に、学習の後半で書く感想文では、読み手に思いや考えが伝わりやすいように、言葉を選びながら工夫して書くことを目指していきたい。

### (3) 指導観

本単元では、自己の研究課題に基づき、書く活動を重点にして学習を進めていきたい。また、感想文を書くにあたり、学習活動前半の読み取りでは、それぞれの児童に感想を持たせるための手立てを工夫していく。

第一次では、「三つのお願い」を読み、最後に感想文を書くことを目標にするという学習内容を伝える。“感想文を書くのは難しい”と感じている児童も多いことから、感想文の書き方を学ぶことや物語を楽しんで読み、みんなで“感想文のたね”を集めながら進めることを伝え、学習への期待と意欲を高めたい。

第二次では、「三つのお願い」を主人公の性格や行動・会話、他の人物との関係とその変化に着目させて読み進めていく。ただあらすじを追うだけでなく、場面ごとに共感できる部分や心に残ったことを“感想文のたね”として、ノートに書き溜めたり、交流し合ったりしていきたい。なかなか物語に対して感想を持たない児童にも、友達のをヒントにして、感想を持てるよう働きかけていく。

第三次では、本単元の重点として捉えている感想文を書く活動である。資料をもとに、初め・中・終わりの三段落構成で書くことやそれぞれの段落に書く内容などを確かめていきたい。そして、集めた“感想文のたね”を使い、一文でメモしていたものを前後の文を付けたしながら、段落ごとに文章にしていく。この時、新しく言葉を付けたし、つながりのある文章を書いていくことを目標にしたい。また、互いの文章を読み合う機会を設定し、表記上の間違いだけでなく、一人ひとりの表現の違いや良さに気付かせ、“自分の思いを適切に伝える”相手意識も持たせていきたい。

## 3 学習指導目標

### (1) 国語への関心・意欲・態度

○自分の体験と重ね合わせながら物語を読もうとする。

### (2) 書く能力

○自分の考えが明確になるように、段落相互の関係に気を付けて書くことができる。(書 イ)

◎書こうとするものの中心を明確にし、理由を挙げて書くことができる。(書 ウ)

○よりよい表現にするために、書いたものを見直すことができる。(書 オ)

### (3) 読む能力

◎登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むことができる。(読 ウ)

○読んで考えたことを発表し合い、感じ方の違いに気が付くことができる。

### (4) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

○感想を表すときに使う言葉や表現を増やし、自分の気持ちがよく伝わるように選ぶことができる。(言イ【オ】)

## 4 指導計画

(「読むこと」5時間 「書くこと」5時間)

次	時	学 習 内 容
一	1	・学習課題を設定し、感想文を書くための学習の見通しを持つこと。
二	2	・「三つのお願い」を読んであらすじをとらえること。
	3・4	・登場人物の会話や行動に気をつけて読み取り、感想文のたねを増やすこと。
	5	・物語を振り返り、感想文の中心になることを考えること。
三	6	・感想文の例から書き方や組み立て、工夫について学習すること。
	7	・段落ごとに書く内容を決め、自分の組み立てメモを作成すること(初め・中・終わり)。
	8 (本時)	・メモを基に、「中」を文章にすること。
	9	・「初め」と「終わり」を考え、「中」とつないで書くこと。 ・書いた文章を推敲し、仕上げること。
	10	・友達と感想文を読み合い、お互いのよいところを交流すること。

5 本時の指導

(1) 目標

- ・組み立てメモを基にして、理由を明確にしなが感想を膨らませるとともに、文と文や段落相互の関係を意識してつながりのある文章を書くことができる。

(2) 展開

段階	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価
導入 3分	<p>1 前時までの学習を想起する。 2 本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>組み立てメモをもとにして、文章を書こう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時では、例を基に、初め・中・終わりにどんな内容を書くのか確かめ、自分のメモを作成したことを想起させる。</li> <li>・短い言葉で書いたメモから「文章」にしていくという意識を持たせたい。</li> </ul>
展開 40分	<p>3 課題を解決する。 (1) モデル文を提示して、メモに言葉を付け足して、文章にすることが分かるようにする。</p> <p>(2) “中”の段落を文章にする。</p> <p>(3) 友達同士で書いた文章を読み合い、交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想文の5つのポイントを確認し、その中でも段落ごとのまとまりと意思が伝わることを選んで書くことを意識させるようにする。</li> <li>・メモカードは、青色(初め) 緑色(中) 赤色(終わり)に色分けし、一つ一つの段落を意識できるようにする。</li> <li>・最初に、例のメモカードとそれを基に作成した文章を提示することで、文や言葉を付けたし文章化するという活動の見通しを持たせる。また、別の言葉に置き換えると文章の印象が変わることやより伝わりやすい文章になることを全体で確かめる。</li> <li>・本文の引用や自分の経験から理由を明確にして感じたことを文章化していくようにする。</li> <li>・「中」の段落に書きたい“感想文のたね”が二つ以上ある時には、書く順番も意識させたい。</li> <li>・なかなか書き進められない児童には、会話しながら思いを言葉に変えられるようにする。</li> <li>・活動の途中で児童の書いた文を紹介し、文と文の関係や段落相互の関係を考えさせ、つながりある文章で書き表せるようにする。</li> <li>・十分に書く時間が取れるようにする。</li> </ul> <p>◇組み立てメモを基にして、つながりのある文章を書くことができたか。(ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達に読んでもらい、互いの表現の良さを見つける。</li> <li>・物語を読んだ時の気持ちがよく分かるという所を見つけて交流し合えるよう声をかける。</li> </ul>
終末 2分	<p>4 次時の学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時は、「初め」と「終わり」を考え、「中」とつないで書くことや書いた文章を読み直し、さらに言葉を付け足したり、つながりのある文章か確かめたりすることを確認し、次時の学習の見通しを持てるようにする。</li> </ul>